

倉敷市

倉敷市の「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム構築」に向けた取組

倉敷市では、平成18年から精神保健医療福祉関係機関とネットワークの構築を目指し、課題の共有を行ってきた経緯があり、平成22年に自立支援協議会精神部会として位置づけた後は、地域移行・地域生活支援に関する検討、取り組みも行ってきた。令和2年から「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム構築」のための“協議の場”を設置し、保健医療福祉等関係機関のネットワーク強化、地域移行等の課題に対しての支援技術向上を目指し取り組んでいる。

令和5年からは、ピアサポートコアメンバー会議を立ち上げ、倉敷市でピアサポート活動を推進できる事業、支援体制等の検討を始めたところである。

1 県、指定都市、中核市、特別区の基礎情報

倉敷市



取組内容

○倉敷地域自立支援協議会精神部会

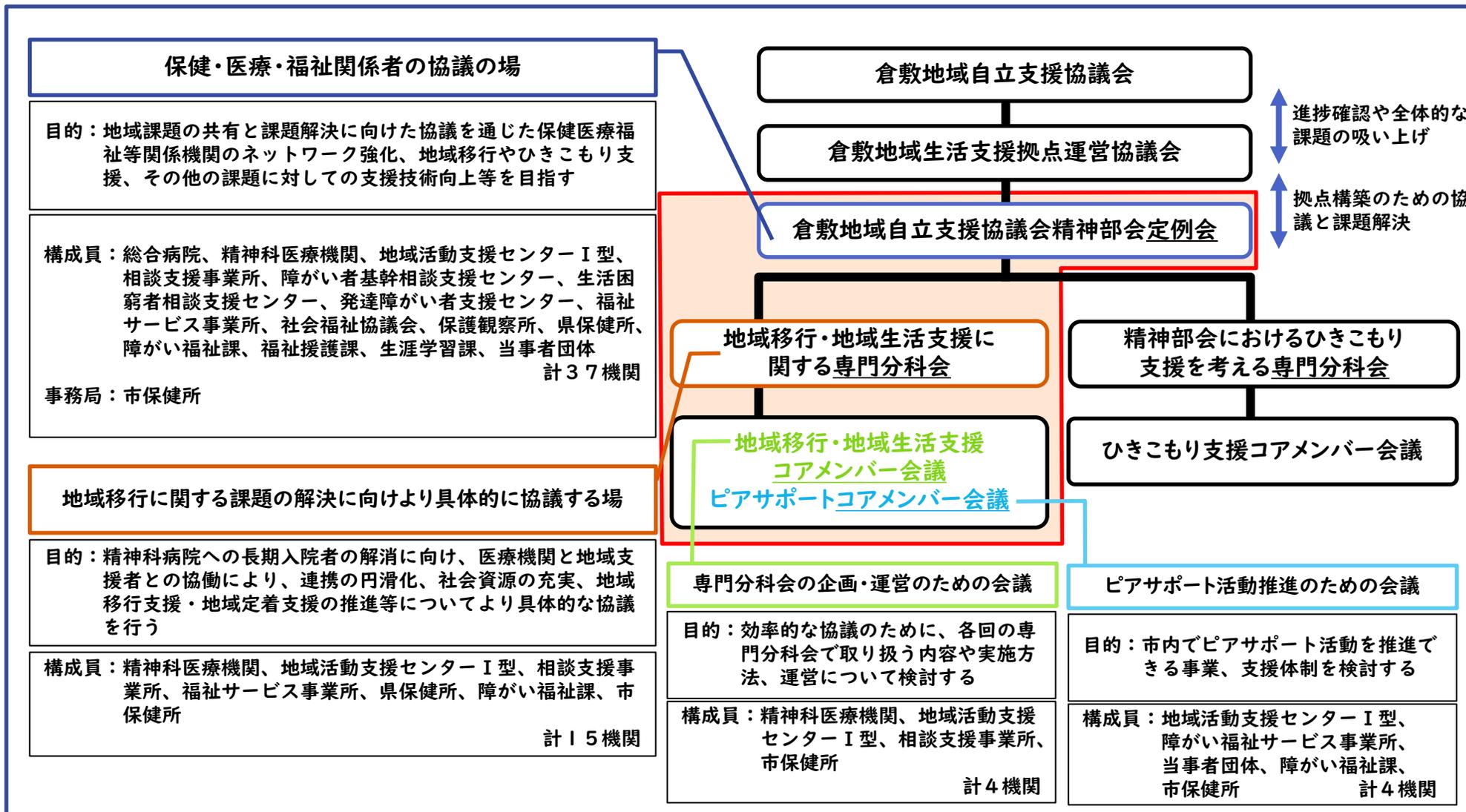
倉敷地域において精神障がいのある方が安心して地域生活が送れるように課題解決のための方策の検討やネットワーク構築を行ってきた。

令和元年度末「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築」のための協議の場と位置付ける。

基本情報（都道府県等情報）

障害保健福祉圏域数 (R5年7月時点)	1	か所
市町村数 (R5年7月時点)	1	市町村
人口 (R5年7月時点)	476,477	人
精神科病院の数 (R3年10月時点)	6	病院
精神科病床数 (R3年10月時点)	854	床
入院精神障害者数 (R●年●月時点)	合計	0 人
	3か月未満 (%:構成割合)	#DIV/0! %
	3か月以上1年未満 (%:構成割合)	#DIV/0! %
	1年以上 (%:構成割合)	#DIV/0! %
		うち65歳未満
	うち65歳以上	人
退院率 (R●年●月時点)	入院後3か月時点	%
	入院後6か月時点	%
	入院後1年時点	%
相談支援事業所数 (R5年7月時点)	基幹相談支援センター数	1 か所
	一般相談支援事業所数	13 か所
	特定相談支援事業所数	36 か所
保健所数 (R5年7月時点)	1	か所
(自立支援) 協議会の開催頻度 (R4年度)	(自立支援) 協議会の開催頻度	8回 (精神部会・専門分科会等を含む)
	精神領域に関する議論を行う部会の有無	有・無
精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた保健・医療・福祉関係者による協議の場の設置状況 (R5年7月時点)	都道府県	有・無
	障害保健福祉圏域	有・無 /
	市町村	有・無 1/1

2 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組概要（全体）



3 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組の経緯

- 平成18年～ 精神保健医療福祉関係機関とのネットワークの構築、課題の共有を開始。
- 平成22年～ 倉敷地域自立支援協議会精神部会として位置づける。
- 平成23年～ 課題の方策を検討するために精神部会における委員会活動を開始。
社会資源マップの作成, 広報活動(地域移行について), 研修企画等
- 平成27年～ 倉敷市地域移行支援連絡会の開催。
個別給付件数の増加(H27→6件, H28→16件, H29→12件)、精神科病院の中に地域の人が入りやすくなり退院支援に関与する人が増えた、退院に向けての支援体制が整備されてきた等の変化がみられる。
- 平成27年度～ 岡山県ピアサポート支援事業を受託した市内NPO法人がピアサポート活動を開始。
- 平成28年～ 倉敷地域自立支援協議会精神部会における委員会活動の中で、ピアサポート活動について活発に意見交換される。
- 平成29年～ 倉敷地域自立支援協議会精神部会の下部組織として、「地域移行と地域生活支援に関する専門分科会」、「ひきこもり支援を考える専門分科会」を設置。
- 令和元年度 市内NPO法人が岡山県ピアサポート支援授業の受託を終了。
- 令和2年～ 「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」のための“協議の場”として倉敷地域自立支援協議会精神部会を位置づける。
- 令和5年～ 倉敷地域自立支援協議会精神部会地域移行と地域生活支援に関する専門分科会の中に、「ピアサポートコアメンバー会議」を位置づける。倉敷市におけるピアサポート活動が目指すもの、登録派遣事業や普及啓発の在り方等当事者意見を大事に協議開始。

4 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築に資する取組の成果・効果

＜令和4年度までの成果・効果＞

課題解決の達成度を測る指標	目標値 (R4年度当初)	実績値 (R4年度末)	具体的な成果・効果
①自立支援協議会精神部会定例会 地域移行・地域生活支援に関する専門分科会 地域移行・地域生活支援コアメンバー会議 の開催回数	/	3回(定例会) 2回(専門分科会) 3回(コアメンバー会議)	新型コロナウイルスの影響で開催を制限していた自立支援協議会精神部会、地域移行・地域生活に関する専門分科会の開催を再開した。 改めて各機関の関係構築を行うため意見交換やグループワークを積極的に取り入れ、支援者のモチベーション維持や具体的な課題と方策の検討が出来た。
②倉敷市におけるピアサポート活動の協議の場を設置する		3回	令和4年4～12月頃までコアメンバー会議の開催にむけ、ピアサポートに関する現状把握、コアメンバーの選定を行い、令和5年1月にピアサポートコアメンバー会議を新たに設置。具体的なピアサポートの体制整備について検討を始めることができた。

5 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた現時点における強みと課題

【特徴(強み)】

倉敷地域における医療機関、福祉事業所、行政が定期的に協議する場があり、顔の見える関係が構築されている。各専門分科会の企画運営から、医療、福祉、保健部門で協議出来ている。

課題	課題解決に向けた取組方針	課題・方針に対する役割(取組)	
<p>・コロナ禍の影響で病院交流会の休止に伴い長期入院者の退院意欲の低下している状況が続いているが、病院交流会やそれにかわるものの再開の目途が立っていない。</p> <p>・医療機関では退院支援に伴う外出等や地域との交流に制限がかかるなど、医療機関職員が孤立している。</p>	<p>地域移行支援に関する事例検討、病院交流会またはそれにかわる地域との交流方法の具体的な検討及び実施、地域で暮らす元長期入院者の生活の様子を取めた映像を利用した研修会の実施。関係機関のネットワーク強化に繋げる。</p>	行政	地域移行支援に関する関係機関のネットワーク強化
		医療	病院内での対象者の選定。職員の意識を高める研修を企画、実施。ピアサポーターの理解を進め、支援の効率をあげていく。
		福祉	積極的に地域移行・地域定着に取り組む。地域移行に取組む事業所を増やす。
		その他関係機関・住民等	精神障がい者の理解と偏見除去
<p>ピアサポート活動推進体制が整備されていない。</p>	<p>①ピアサポート活動推進体制を構築するための協議の場を設定。倉敷市におけるピアサポート活動が目指す方向性、取り組みについて協議。</p> <p>②自立支援協議会精神部会や地域移行専門分科会を活用し、ピアサポートについて普及啓発(専門職とピアが協働出来る基盤づくり)。</p>	行政	ピアサポート活動を推進する基盤整備
		医療	事業への理解と協働
		福祉	事業への理解と協働
		その他関係機関・住民等	事業への理解と協力

課題解決の達成度を測る指標	現状値 (今年度当初)	目標値 (令和5年度末)	見込んでいる成果・効果
①自立支援協議会精神部会定例会等協議の場(精神部会、専門分科会、コアメンバー会議)の開催回数	8	10	退院意欲の喚起につながり、相談件数が増え、結果として退院可能な患者が増える。
②ピアサポートに関する協議の場の設定	4	12	
③地域移行サービス利用件数	7	15	
④病院交流会の開催回数	0	5	

※指標設定が困難な場合は、代替指標や定性的な文言でも構いません。

6 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築のための連携状況

【にも包括構築の体制】

精神科病院、障害福祉サービス等事業所、保健所、庁内関係課、当事者等が参画する自立支援協議会精神部会にて、にも包括構築にむけた協議の場を設置

所管部署名	所管部署における主な業務	連携部署名	連携部署における主な業務
倉敷市保健所保健課精神保健係	精神障害者保健福祉手帳・自立支援医療(精神通院)の申請受付、精神保健対策についての企画・実施、にも包括構築の協議の場の企画運営等	障がい福祉課	障がい者(身体・知的)手帳の受付、3障がいの福祉サービス利用に関する相談等
		福祉援護課	生活困窮者支援、高齢者・障がい者の権利擁護、緊急援護等に関連する業務
		生涯学習課	市民講座、家庭教育支援事業、ひきこもりや不登校等の当事者保護者向け情報発信等

各部門の連携状況		強み・課題等
保健	岡山県精神保健福祉センターとのアウトリーチ連絡会や研修会、県備中保健所との連絡会等が行われている。	
医療	コロナ前は病院交流会や事例検討会を開催し、地域移行を積極的にすすめてきた。	コロナ禍の影響で、病院交流会や事例検討会を中止せざるを得ない状況が続いたが、再開に向けて協議を再開。協議の場には市内病院、クリニックのコメディカルの参加が中心。
福祉	障がい部門は協議の場に参加。	障がい部門との連携はある程度できているが、今後は介護部門への働きかけが必要。
その他関係機関・住民等	精神障がいの理解と偏見除去に取り組む市民ボランティア“くらしき心ほっとサポーター”と協働で啓発活動を行っている。	サポーター自らが積極的に当事者と交流し、理解を深め、市と共同かつ市民目線で普及啓発に取り組んでいる。

7 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築のための協議の場の実施状況

名称	協議の場の構成員	開催頻度	実施内容	特記事項等(課題・強み等)
倉敷地域自立支援協議会精神部会	精神科医療機関、相談支援・地域活動支援センター、障がい福祉サービス等福祉関係機関、行政機関、当事者団体の支援者及びメンバー	年4回	最新の施策・地域課題等の共有、方策の提起、スキル向上	保健、医療、福祉で顔の見える関係を築くことが出来ていることが強み。精神部会の定例会と各専門分科会との連動が必要。
地域移行・地域生活支援に関する専門分科会	精神科医療機関、相談支援・地域活動支援センター、障がい福祉サービス等福祉関係機関、行政機関、当事者団体の支援者及びメンバー	年3回	地域移行に関する課題の共有と方策について協議	課題の共有や方策の協議はできているが、コロナ禍の影響で病院交流会や事例検討会、それにかわる取り組みの具体的な実施が足踏み状態となっている。
地域移行・地域生活支援 コアメンバー会議	地域活動支援センター、障がい福祉サービス等福祉関係機関、行政機関	年5回	地域移行専門分科会の企画運営をコアメンバーと協議	保健部門だけではなく、医療、保健、福祉で協議して企画運営を検討していることが強み。
ピアサポートコアメンバー会議	地域活動支援センター、障がい福祉サービス等福祉関係機関、行政機関、当事者団体	毎月	倉敷市におけるピアサポート活動推進体制の構築にむけて協議	県内他圏域に比べてピアサポート活動体制整備が後進地域であり、なお一層の協議や普及啓発が必要。

【その他事項】 ※協議の場運営における課題や悩んでいる点、アドバイザーに相談したい事項など、自由に記載ください

8 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた今年度の取組スケジュール

時期(月)	実施する項目	実施する内容
R5年度 ※年4回	倉敷地域自立支援協議会 精神部会定例会	<ul style="list-style-type: none"> ・各専門分科会で協議された課題や方策を共有 ・関係者が倉敷地域の精神保健福祉の現状を共有し、課題解決に向けた方策を検討
R5年度 ※年3回	地域移行・地域生活支援に関する専門分科会	<ul style="list-style-type: none"> ・地域移行促進に利用可能な、地域で暮らす元長期入院者の生活の様子を収めた映像の活用や、病院交流会に替わる取組の具体的方法について協議
R5年度 ※年5回	地域移行・地域生活支援コアメンバー会議	<ul style="list-style-type: none"> ・地域移行専門分科会の企画運営 ・地域移行に係る課題や対策について協議
R5年度 ※年10回	ピアサポートコアメンバー会議	<ul style="list-style-type: none"> ・倉敷市におけるピアサポート活動推進体制の構築にむけて協議